



換気をよくし酸欠事故を防ごう

毎年、冬になると、酸素欠乏による事故が増えます。なかでも多いのが、ストーブや瞬間湯沸器などガス器具の不完全燃焼による一酸化炭素中毒です。これは、新建材やアルミサッシなどの普及によって住宅の気密性が高まったにもかかわらず、換気が十分でないために起きる事故です。酸欠事故を防ぐため、今一度、わが家の換気について点検してみてください。

ガスは「空気の大食漢」

私たち人間が、空気（酸素）を吸って生きているように、都市ガスやプロパンガスも、燃えるためには、空気（酸素）が必要で、人間とガス器具の場合では、断然違います。

一人の人間が、座るか寝るか、とにかく安静にしているときに必要な空気の量は、一時間で、ドラムカン（〇・二立方分）二本分に相当します。

さて、ガス器具を、一時間連続使用すると、どれくらいの空気が

おそろしい

一酸化炭素の中毒

ガスは、燃焼中に空気（酸素）が足りなくなると、不完全燃焼となり、有害な一酸化炭素を出すよ

うになり、これが大変に怖いのです。その怖さというのは、〇・〇二%でも、二〜三時間で、前頭部に軽い頭痛を起し、



〇・〇四%では、一〜二時間で、前頭痛や吐き気を起します。〇・〇八では、四十五分で頭痛・めまい・吐き気・けいれん、二時間で失神します。さらに〇・一六%だと、二

十分で頭痛・めまい・吐き気がし、二時間で死亡します。〇・三二%では、五〜十分間で頭痛・めまい、三十分で死亡します。〇・六四%では、一〜二時間で頭痛・めまい・十五分〜三十分で死亡します。そして空気中のたった一%を越えた一・二八%では、なんと一〜三分間で死亡するという事です。

もう一度

確かめよう

わが家の

換気

このように怖いガスの不完全燃焼を防ぐには、常に新しい空気を取り入れ、古い空気を出してやる——この繰り返しが必要です。そのためには、換気扇を取りつけたり、ガスストーブ使用の場合には、三十分ごとに窓を開けるなど、いつも新鮮な空気を取り入れることです。

寒いからといって、閉めっきた部屋で、長時間ガスを使うのは、酸欠事故を起こす元です。とくに、最近の住宅には、アルミサッシなどが多く、部屋の気密性がよいため、昔の木造家屋のような「自然換気」は、ほとんど望めません。換気には、十分注意しましょう。

歳時記

鏡もち

昔といっても、ついこの間までのことですが、正月の鏡開きの日には、コチコチになってヒビの入った鏡もちを、金づちで割って、お汁粉に入れて家中で大喜びして食べたものです。ところが最近では、この江戸時代から続いてきた儀式も、家庭では、だんだんすたれていくようです。

もつとも、いま市販されている鏡もちには、二段重ねのものを重ねたままポリでパックしたものが多く、なんだか「儀式」としてのもち味も薄れた感じがしないでもありません。もちも世につれ、とでもいまいましようか。

鏡もちのいわれは、丸い金属の鏡をかたどったもちを神に供えたもの、また、人の心臓をかたどったものなどの説があります。もちの形は、地方によっては平らな丸もちだったり、重ねもち三枚のところがあつたりです。呼び名も、おそなえ、おすわりなどいろいろあります。

それにしても、鏡開きという江戸時代からの伝統がだんだん下火になるとともに、家族が共に相寄って祝い事をする機会が、また一つ消えていこうとしていることも事実です。